



2013. 12

一般社団法人 原子力安全推進協会／ヒューマンファクター検討会

“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”  
No. 9 〈 検討不足 〉

タイトル：いつもと同じですか？

【事例】

安全性向上のため長期にプラントを停止し設備改造を行いました。通常定検であれば作業は定型化されており、従来の資料をベースに効率的に作業計画を立案し手順書を作成していましたが、今回はプラントの状況が異なっていることから、図面確認に加え現場確認も実施し、（改造箇所のみならず小さな変化も含めて）多方面からの徹底したリスクの洗い出しを行いました。

これまでとプラントの状況が違うことを所員一人一人が認識し、リスクを評価することで安全な作業計画を立案しました。

【ヒューマンファクターの視点から】

人は、定例作業や経験を積んだ作業では効率性・合理性を追求してしまう性質があります。これを最小努力の法則といいます。人は常にエネルギーを温存して仕事を楽に実施しようとする特性を持っています。そのため、少し疑問に感じて「今回も同じだろう」「おそらく問題ないだろう」と考えて省略行為・近道行為に走りがちです。

些細な違和感を覚えるときこそ大きなリスクが潜んでいます。まずは個人で「いつもこうだから大丈夫」と思考停止してしまわずに「今回はいつもと違うかもしれない」という意識を持って作業にあたることで、変化に対する気付き力を高める必要があります。

また、個人では省略行為、近道行為に走りがちなシチュエーションにおいても、複数人で対応することで防止できる可能性があります。そのため、日頃からリーダーを含めて風通しの良い職場環境を作ることも重要です。

いつもとは異なるリスクが潜んでいるという意識を持って、作業計画時には徹底したリスクの洗い出しを行いましょ。

以上